各　位

2026 年 11 月 5 日
SBI EVERSPIN 株式会社

SBI EVERSPIN、「第 16 回サイバーセキュリティ国際シンポジウム」に登壇

～防衛・重要インフラ分野における継続的なリスク管理と、AI 時代の動的防御の重要性を解説～

SBI EVERSPIN 株式会社（本社：東京都、代表取締役社長：尹慈明、以下「当社」）は、2026 年 10 月 29 日に慶應義塾大学三田キャンパスにて開催された「第 16 回サイバーセキュリティ国際シンポジウム」において、当社取締役副社長の渡辺秀明および代表取締役社長の尹慈明が登壇したことをお知らせいたします。

本講演では、「ソフトウェア化時代の防衛・重要インフラを支える MOSA・SBOM・RMF と、AI MTD による ARTEX 等の AI を活用したサイバー攻撃への対策」をテーマに、防衛装備品のソフトウェア化に伴うセキュリティ上の課題や、AI エージェントを活用したサイバー攻撃の高度化・自動化について解説するとともに、継続的なリスク管理と動的防御技術の重要性について考察しました。

■ 防衛分野におけるサイバーセキュリティの課題と今後の展望

渡辺副社長は、防衛装備品のデジタル化・ソフトウェア化が進展する中、サイバーセキュリティの確保と技術革新への迅速な対応を両立させることの重要性を指摘しました。

従来の防衛装備品は、長期間の運用を前提とした一体型のシステム設計が主流でしたが、AI 技術やソフトウェアの進化が加速する現在では、継続的な技術更新とセキュリティ対策が不可欠となっています。

こうした課題への対応として、MOSA（モジュール型オープンシステムアプローチ）による柔軟なシステム更新、SBOM（ソフトウェア部品表）によるソフトウェア構成の可視化と脆弱性管理、RMF（リスクマネジメントフレームワーク）による継続的なリスク管理の必要性を強調しました。

また、米国における防衛装備品の調達・開発の動向を踏まえ、スタートアップ企業などが有する先進技術を積極的に取り入れることで、技術革新を促進する仕組みの重要性にも言及しました。

さらに、日本の防衛分野においても、技術開発とサイバーセキュリティ対策を一体的に推進し、継続的に進化するシステムの構築が求められるとの見解を示しました。





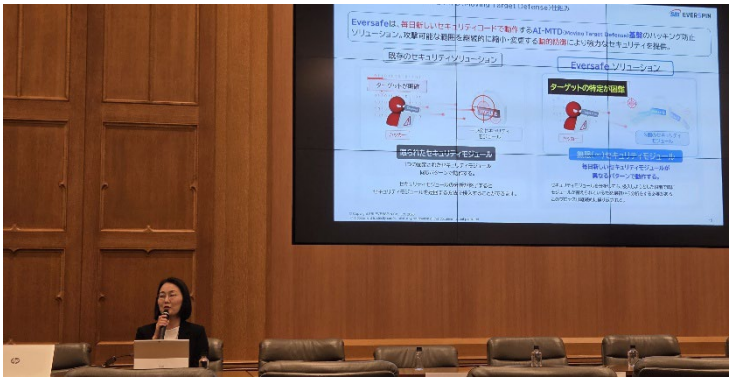
■ AI エージェントを活用したサイバー攻撃の実態と対策

続いて、尹社長は、AI 時代のサイバー攻撃をテーマに、金融機関を標的とした AI 活用型サイバー攻撃の実態と、これに対抗するセキュリティ技術を取り上げました。

近年、デジタルトランスフォーメーション（DX）の進展により、企業・組織が保護すべきシステムやサービスの範囲が拡大しています。一方、生成 AI や AI エージェントの活用によって、サイバー攻撃に必要な情報収集、脆弱性診断、分析、攻撃の実行などが自動化され、攻撃の高度化・効率化が進んでいます。

講演では、韓国の金融機関において発生したサイバー攻撃事例を取り上げ、一般に公開され、サイバー攻撃への悪用が指摘されている AI エージェント「ARTEX」を用いた攻撃の検証結果を交えながら、AI による外部に公開されている IT 資産の探索や自動化されたリクエストによる反復的な攻撃の特徴を説明しました。

また、金融機関の主要システムだけでなく、業務支援システムや周辺サービス、モバイル端末なども実際に攻撃対象となったことが韓国の事例から確認されています。そのため、外部に公開されているサービスや Shadow IT、API を継続的に把握・管理し、アクセス権限を適切に設定するとともに、攻撃の早期検知や遮断を行うなど、複数の対策を組み合わせた多層的なセキュリティ対策が重要であると指摘しました。





■ AI MTD を活用した Eversafe の動的防御技術

AI を活用したサイバー攻撃への対抗策として、当社が提供するセキュリティソリューション「Eversafe」の動的防御技術を取り上げました。

Eversafe は、AI を基盤とした MTD（Moving Target Defense：ムービングターゲットディフェンス）技術を活用し、Web アプリケーションやモバイルアプリケーションに対して、防御を常に変化させる仕組みにより、継続的に変化するセキュリティ環境を提供するソリューションです。

講演では、ARTEX を用い、デモサンプルの Web アプリケーションを対象に実施したサイバー攻撃の検証結果も取り上げました。本検証では、22 秒間で 6 ラウンドの処理が行われ、また処理量として 44,000 トークンが使用されたことが示され、AI エージェントによる脆弱性診断から攻撃の実行に至るまでの一連のプロセスが、短時間で自動的に行われる実態が浮き彫りとなりました。

こうした AI エージェントによる攻撃に対し、Eversafe は従来の固定的な防御対策とは異なり、セキュリティコードや防御ロジックを継続的に変化させることで、攻撃者による解析結果の再利用を困難にし、攻撃の実行に必要な時間や計算資源などのコストを増大させることを目指しています。

AI 時代のサイバーセキュリティにおいては、攻撃を検知・遮断するだけでなく、攻撃者にとって攻撃の継続が困難となる環境を構築することが求められており、動的防御はそのための有効なアプローチの一つとして期待されています。

■ 講演の総括 ～防衛・金融分野に共通するサイバーセキュリティの重要性～

講演の最後には、渡辺副社長が防衛分野と金融分野におけるサイバーセキュリティの共通課題について総括しました。

防衛分野においては、MOSA による柔軟な技術更新と、SBOM・RMF を活用した継続的な脆弱性管理やリスクマネジメントが重要である一方、金融分野における Web アプリケーションなどの保護には、MTD による動的防御の重要性が高まっていることを指摘しました。

また、AI 技術の進化によってサイバー攻撃が高度化・自動化する中、従来の脆弱性管理に加え、攻撃対象を継続的に変化させる動的防御を組み合わせることが、今後のサイバーセキュリティ対策において重要になるとの見解を示しました。

防衛・金融という異なる分野においても、システムの安全性を継続的に確保しながら、変化する脅威に柔軟に対応することが共通の課題であり、技術の進化に合わせてセキュリティ対策も進化させていく必要性が改めて示されました。



■ 今後の取り組み

当社は、AI 技術の進化に伴い高度化・巧妙化するサイバー攻撃の脅威に対応するため、AI を活用した次世代サイバーセキュリティ技術の提供に取り組んでおります。

今後も、金融機関をはじめとする高いセキュリティ水準が求められる企業・組織に対し、先進的なセキュリティソリューションを提供するとともに、安全で信頼性の高いデジタル社会の実現に貢献してまいります。

■ SBI EVERSPIN について

SBI EVERSPIN は、AI を基盤としたサイバーセキュリティソリューションを提供するテクノロジーカンパニーです。SBI グループの一員として、金融機関をはじめとする様々なお客様に対し、セキュリティ運用の高度化、事業継続性の向上を支援しています。

今後も「Building Trust for the Age of AI」のビジョンのもと、AI 時代に求められる継続的なセキュリティ運用を支える「Trust Layer Platform」の構築を通じて、安心・安全で持続可能なデジタル社会の実現に貢献してまいります。

SBI EVERSPIN 会社概要

会社名	SBI EVERSPIN 株式会社
代表者	代表取締役社長　尹　慈明
所在地	東京都港区六本木一丁目 6 番 1 号
設立	2018 年 8 月 21 日

資本金	5,000 万円
株主構成	SBI グループ 70%
URL	https://www.sbieverspin.co.jp/

以上

＊＊

本プレスリリースに関するお問合せ先：
SBI EVERSPIN 株式会社 contact@sbieverspin.co.jp